
疑心暗鬼

テト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

疑心暗鬼

【コード】

N0895BA

【作者名】

テト

【あらすじ】

殺人をテーマにして書きました

(前書き)

久しぶりの投稿だったからなままっているか心配だったけど問題なし

誰かが死んだ。

誰が殺したのがわからないが、僕以外の人間を疑い始め
そして、また、死んでく。

殺した人が、いつ僕に牙をむいてくるかわからない。
やられる前にヤレ！

ナイフをもって、僕は近寄る。
いまさら説得しても無駄。僕にはもう…
さしたときの生々しい音とナイフに滴る赤黒い血
やったんだ。僕も犯罪者…

その後もナイフで刺した…刺し続けた…
ナイフの柄の部分に血がかかる。
刺し続けて落ち着いたときに気づいた

原型がわからないほどに細い穴が無数にあった。
首も腹も足もすべて、やった。
それは、赤黒い血のせいで一層わからなくなってしまっていた。

ピタッ　ピタッ

血がかかったナイフから赤い液体が床に落ちる。

コッソ　コッソ　コッソ

靴の音が聞こえるそして…

入り口を見たら一人の女性がいた

視線を向けた瞬間鳥肌が立った

その容姿は女性で長い古びた新しい血がついた白いワンピース、長い長い髪、無意味に笑っている口と目そして、よく切れそうな包丁。

僕を殺しに来たんだ。

口元が笑みを浮かべ、目は人を殺すのを楽しむ殺人鬼になっていた。
彼女が足早に向かってくる

僕は、動かない・・・動けない

死にたくない、死にたくない。

逃げろよ。

彼女がきて、僕ののど元を鋭い包丁で切り裂いた。

赤い血の噴水が見え、その後に何度も刺され
その後の記憶はもうない・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0895ba/>

疑心暗鬼

2012年1月2日00時48分発行